ビッグアイ周辺交通環境向上実証実験（大分県大分市）の概要
（平成１３年９月～平成１４年１０月）

◇　背　景

大分県では、サッカーW杯が開催されるスタジアム（ビッグアイ）がオープンしたが、ＪＲ駅から距離が遠く、来場手段としては自家用車が多くなると見込まれた。このため、大規模イベント時に交通渋滞や違法駐車の発生が懸念され周辺環境に悪影響が及ぶことが予想される。

よって、今後のイベント開催時や周辺地区整備後の環境負荷の少ない交通手段の活用が求められていた。

◇　実験の概要

ビッグアイ周辺における渋滞防止のためビッグアイでのイベント開催時に大分駅等からシャトルバスを運行し、観客のバス利用を誘導するとともに、ビッグアイ周辺における違法駐停車を抑制する。

①イベント・Ｊ２公式戦及びW杯開催時のシャトルバスの運行

大分駅、別府駅、高城駅、大在臨時駐車場等からのシャトルバス（無料）を運行し、レール・パーク＆バスライドの実施

②試合会場でのＰＲ

ビッグアイで大型スクリーンを利用した環境負荷低減施策のＰＲを行う

実験の成果

○シャトルバスについては、W杯３日間合計で約７９，０００人（総入場者数の６６％）が利用した。

○連絡道路および周辺地域において渋滞の発生もなく、おおむね良好な交通輸送体系が保たれた。

実験後の状況

○シャトルバスについては、Jリーグ公式戦、イベント開催時には運行を実施している。